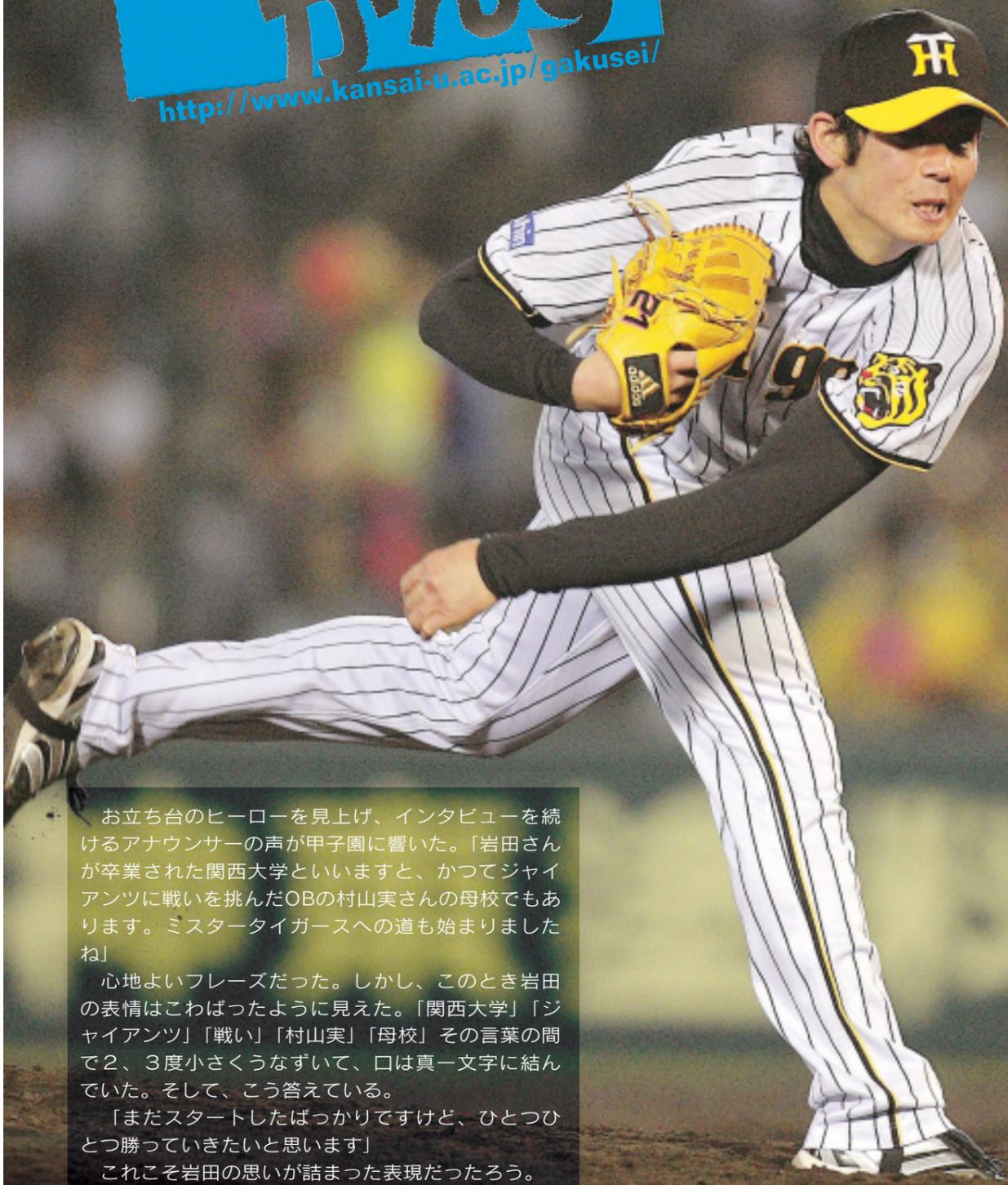


関西大学学生センター

ぴあかんすい No.2
<http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/>

夢への一投



お立ち台のヒーローを見上げ、インタビューを続けるアナウンサーの声が甲子園に響いた。「岩田さんが卒業された関西大学といたしますと、かつてジャイアンツに戦いを挑んだOBの村山実さんの母校でもあります。ミスタータイガースへの道も始まりましたね」

心地よいフレーズだった。しかし、このとき岩田の表情はこわばったように見えた。「関西大学」「ジャイアンツ」「戦い」「村山実」「母校」その言葉の間で2、3度小さくうなずいて、口は真一文字に結んでいた。そして、こう答えている。

「まだスタートしたばかりですけど、ひとつひとつ勝っていききたいと思います」

これこそ岩田の思いが詰まった表現だったろう。

今年4月26日、阪神甲子園球場で行われた巨人とのナイトゲーム。プロ3年目の24歳、阪神タイガースの岩田稔投手は、初完投勝利で3勝目をマークした。巨人のエース上原浩治投手との投げ合いでしかも、先に点を失った。だが、辛抱強いマウンドさばきでチームの、そして自分の白星につなげた。岩田の生きてきた道が凝縮されたかのような展開だった。

大阪桐蔭高校時代に発症した糖尿病。大学でもプロでも、人より好スタートを切ったわけではない。だからこそ「ひとつひとつ勝っていききたい」の言葉が岩田らしい。ひとつ、ひとつが重いのだ。プロ野球の厳しさについていけている自らの体、そして家族や仲間の支え。それらのことを考えるから、冷静に熱くなれる。

野球部のマネジャーとして岩田と大学4年間を一緒に過ごした報知新聞社の「トラ番」持井麻衣記者が、素顔の「阪神の岩田、関大OBの岩田」をインタビューした。



特集

阪神タイガース
岩田稔投手インタビュー

Interview

岩田稔 投手

2008年3月29日。開幕2戦目の横浜戦で待望の初勝利を飾った。6回6安打1失点。関大の卒業生・岩田稔投手(24)がプロとしての1歩を踏み出した瞬間だった。

「今年はキャンプ、オープン戦から気持ちで投げるようになって、そうしたら結果が出せるようになりました。『走者を出しても絶対点はやらない』と思って投げてました」

その日、初めて上がったお立ち台。「めちゃくちゃうれしいです」。月並みな一言が、これ以上ない素直な気持ちだった。

05年のドラフト希望枠で阪神に入団した。即戦力、ポスト井川と期待されるも、勝利への道のりは長かった。06年10月14日の広島戦で初先発を果たすも3回4失点で初黒星。07年7月28日の横浜戦でも勝ち投手寸前の5回2死までたどり着きながら、適時打を浴びても勝利に見放された。

「あと1人という場面で負け投手になって…なんであのゴロ取られへんかったとか次の四球があかんかったとか。そうすると次の先発にも響いてどんどんマイナス思考になってました」

2軍に逆戻りし、再調整の日々。そんな中、憧れの先輩のアドバイスで少しずつ変わり始めた。

「1年目から井川(慶)さん=現・ヤンキース=

にお願いして自主トレを一緒にさせてもらってたんですけど、初登板の広島戦のことで『前田(智徳)の時のインコースの目付けが甘い』って言われたんです。それで『目付けて何やろう』って本とか、新聞の選手の対談、評論家のコラムとかを読むようになりましたね」

1球ごとに意図を考え、捕手のサインを理解して投げる。プロとしては当然のことに気付き、実行したからこそ初めての開幕ローテーションをつかみ取った。

そんな岩田と切っても切れないのが糖尿病だ。大阪桐蔭高2年の時「1型糖尿病」を発症した。現在も1日4回のインシュリン注射と食事の調整



皆さんの応援があるから

がんばれる。

は欠かせない。大変そうだと周りには心配するが…

「ハンディとは思ってないです。僕の特徴。規則正しく生活しないといけないので、逆に体も動くし、いいリズムが生まれてくるんです。これがあつたからこそ来てると思ってます」

今季プロ3年目を迎えた。さかのほれば3年前までは紺のブレザーを着ていた関大野球部の一員だった。

「大学時代は腰とかひじとか故障が多かったです。3年の夏の名古屋遠征で高岡監督(当時)にぶん殴られたのはよく覚えてますよ。3回9失点で。その時はすごく自分に腹が立って情けなかったけど、監督の僕に対する期待を感じました」

「グラウンドと部室の往復ばかりで、学内でどこというのはいりませんが、関前の『若草』や『GB』にはよく行きました。4年の時の最後の秋季リーグの打ち上げもGBでしたし」

千里山キャンパスでほかの学生と同じように一応(?)勉学にも励み、4年めでたく経済学部を卒業した。

「勉強も頑張りましたよ(笑)。友達を作って、テスト前にはだいぶ助けてもらいました。でも語学は強敵やったな(笑)」

まさにピア・コミュニティ。キャンパスライフを楽しみながら、グラウンドでは必死に汗を流す毎日で、将来のことを漠然と描き出したのは3年のこと。

「社会人で野球でメシを食べていきたいと思ったんですけど、その時点では体はひよろひよろ。何とかせなあかんなど自分なりに考えて、練習後にジムに通いました」

体重は10キロアップし、ひじを痛め130キロ台に落ちていた球速もMAX151キロをマーク。新入団選手の

体力測定でプロのトレーナーを驚かせる肉体を作り上げた。今季のタイガースの快進撃を支える左腕の原点が、このキャンパスにつまっていたとも言える。

「タイガースに入ったら周りに意外と関大出身の人が多く。球団関係者とかメディアの人とか。関大ネタで盛り上がりまして、もっとしっかりしないといけないなと思います。現役の時にはわからなかったこと」

OBに支えられていることへの一番の恩返しは、活躍すること。それが現役生へのメッセージにもなる。

「関大の看板を背負ってるんで、もっとメディアに出られるように頑張ります。新聞とかに出たときにはみなさんに『岩田頑張ってるな』とわかってもらえるように」

その後も勝ち星を積み重ね、新人王のタイトルにも期待がかかる。

「僕が2ケタ勝つことが出来たらチームの優勝の可能性は大きくなると思うんで、最低2ケタを目標に。その結果が新人王にもつながると思います。これからも1戦1戦頑張りますので、みなさん応援よろしくお願いします」

Profile

岩田稔 (いわた・みのる)

1983年10月31日、大阪府守口市生まれ。24歳。庭窪小1年のときに「庭窪スポーツ少年団」で二塁手として野球を始め、3年から投手に転向した。大阪桐蔭高を経て、02年に関大に入学。2年時の秋季リーグ関学戦(甲子園)で大学初勝利を挙げ、通算6勝10敗。05年大学・社会人ドラフト希望枠で阪神入団した。178センチ、85キロ。左投左打。

interviewer

持井麻衣 (もちい・まい)

1983年12月21日、奈良県生まれ。24歳。関大時代に体育会野球部で4年間マネージャーを務め、06年に報知新聞社に入社。1年間のゴルフ担当を経て、07年冬から阪神担当。



問題・対立の解消とピア・サポートなど

文学部教授
田中 俊也



初回のイントロダクションの講義で、このピアの活動を、単なる仲良しの横の関係でもなく、階層的な縦の関係でもなく、「ナナメ」の関係の構築であることを話しました。このことが共有できるような共同体が少しずつ出来上がっていく手ごたえを感じています。

自分の隣の席の人は実は同じ関大生なのです。自分の前を歩いている人も同様です。同じ空間で同じ空気を吸っている、それだけでも仲間意識がわいてくる。それをてらいもなく感じ、援助や補助の要請をあたりまえのように行いあう、そんなファミリーなキャンパスにしたいものです。

キャンパスライフ (1)

学校法人関西大学
常務理事
池内 啓三



受講生の皆さん、元気ですか。年間の目標を立て、週間スケジュールを作って、時間管理はうまくやっていますか。朝食はきちんと摂っていますか。そんなことよりも、この間一番気にかかっていることはマンマのサイクロン被災であり、四川大地震被災の二つの大自然災害のことである。悲惨な窮状にかかわらず、軍事政権が支援を受け入れないとか、自衛隊機での救援物資の派遣について歴史の壁はなお厚かったのか見送られることになったとか。ああ！人間のなんと愚かなことか。学生諸君、今直ちに自分の出来ること。2つの災害への募金活動に積極的にかかわろうではないか。

キャンパスライフ (2)

大学本部長
小西 靖洋



諸君が提出してくれたレポートは「私の宝物」です。新米講師に多くの示唆を与えてくれたことを感謝します。次に機会があればそのエッセンスを生かしたいと思えます。少し苦言を呈すれば、諸君のレポートでこれはと思えるものは数点でした。誤字脱字の多さ、文章のまずさはこれからの諸君の大きな課題でしょう。自分の立っている場所をしっかりと見極め、自分のできることを発見してください。

自ら創るキャンパスライフ

学生サービス事務局長
五藤 勝三



楽しく学べるのが理想ですが、内容によっては、「学ぶこと」の難しさ、苦しさを体験し、そこを通過してはじめて「学ぶ楽しさ」を発見できることもあります。レジュメ、テキストを熟読し、講義を真剣に聴くことで「考える材料としての知識」を増やす努力も忘れずに。

意味があってもなくても、アツという間の4年間。どうせなら「皆さんなり」のキャンパスライフをしっかりデザインし、イキイキと将来の希望につながる充実した4年間のキャンパスライフを過ごしてほしい。

自ら創るキャンパスライフ

学長室長
岡田 弘行



今回、授業に関連して感じたことは、大学に長年勤めている人間でも、本学のさまざまな制度について、知らないことが意外と多いという点です。

ですから君たち学生諸君は、興味や関心を持ったことで分からない事項があれば、遠慮せずドシドシ質問し、関西大学の諸機能を存分に使ってもらいたいと思います。

いざ、ピア・サポート活動へ

「関西大学におけるピア・サポートを考える」

平成20年度春学期からピア・サポート活動への導入を目的とした授業「関西大学におけるピア・サポートを考える」がスタートしました。

この授業は、9人の講師陣によるリレー講義形式であること、常務理事や大学本部長をはじめとする事務職員が教壇に立つことが特徴で、本学の歴史や教育理念、ピア・サポート活動に不可欠である心理学の基礎知識等をその内容としています。

そこで今号では、講師、受講者、さらには裏方として授業をサポートしてくれたRA（リサーチアシスタント）、TA（ティーチングアシスタント）のみなさんに授業の感想を聞きました。

この記事を読んで、ピア・サポート活動に少しでも興味を持った皆さんは、これから始まるピア・サポート活動に積極的に参加してください。

授業を実施しての感想 受講者および学生へメッセージ

ストレスとのつきあい方

非常勤講師
菊池 節子



この科目のテーマを理解しないまま受講している人が多いのではないかと感じました。

テーマをしっかり把握していただければ、より効果的な学びができるのではないのでしょうか。

人はひとりでは生きられない。自立、自律をしていますが、ときには甘えたり、頼っていいですね。そして周りの人たちにも関心を払ってほしいです。

かかわり学びとは何なのか

文学部教授
伴 義孝



ここ数年間の大学生の挙動が変だと感じていたのは私だけではないはずだ。1998年頃から小学校で仲間やクラスとの「かかわり」を結ばない学級崩壊状況が世間を騒がせてきた。現在の大学生がちょうどその世代。そこでピアサポート授業が登場したのだろう。この問題は根が深い。いまや「生き方の問題」を大学も問うべきでないか。

なぜ「歩く」のかという根本問題を考えたことがありますか。歩くのは、「ひと・もの・こと」との出会いにおいて、あなたとの「かかわり」を創造する生き方の問題なのです。「あんな高い山へ歩いて登るの?」「シンドリからやめとくワ」では、「かかわり」は生まれません。試しに山河を踏破してみてください。多くの発見があるはずですよ。

コミュニケーションのとり方

総合情報学部教授
久保田真弓



体育館で体を動かすワークを取り入れながら、「コミュニケーション」について考えた。座学と違うワークショップ形式での学びに戸惑っていた節もあるが、机といすがない分、学生の本音が垣間見られた。教師と学生という構図だけでなく、さまざまな人々の相互作用から生まれる学びをもっと大事に出来れば良いと思う。

昨今は、携帯電話やブログなどの利用で気の合った仲間とは容易につながりを作ることができる。そこで今後は、意識してでもあえて自分とは違う考え方の人、違う生き方の人の輪に飛び込み話し合ってほしい。自分を磨くには、他者が必要であり、デジタル社会では、意識してアナログ(非言語や感情)を重視する必要があるからだ。

大学生のソーシャルスキル

文学部准教授
串崎 真志



講義では「大学生のソーシャルスキル」(橋本剛著、サイエンス社)から、友人関係を作るためのスキルを解説し、カウンセリングの基本である傾聴の実習を行いました。

この本は大学生活に困ったときに読むと自己理解や他者理解が深まり、お勧めです。

「友だちから相談を受けたが、自分の考えを伝えていいのでしょうか?」という質問がしばしばあります。おそらく「話した本人を傷つけてしまわないか」という配慮の気持ちなのでしょう。多くの場合、心配は無用。友人として誠実に答えることが第一です。

公開授業

「からだ気づき」



5月22日、横浜国立大学教授の高橋和子先生をお迎えし、「からだ気づき」の公開授業を中央体育館で行った。この授業は、人間が本来持っている感覚やリズムなど、「からだ」の動きを体験できるワークショップである。

授業ではグループを編成し、さまざまなワークによってコミュニケーションをはかり、体を動かすことを楽しみながら、「ピア・サポート」について考えることができていたようだった。

受講の感想

文学部 総合人文学科
松田 優一

私は、この授業を通して本学におけるピア・コミュニティの必要性を感じた。現在の本学は学生同士の横のつながりが弱く、1回生の中には不安を抱えている人もいることだろう。もし、本学にピアの理念が定着すれば1回生の不安を和らげ、上回生もさまざまな不安を和らげることができる。

幸い本学には、たくさん課外活動の組織がある。このような既存の組織のネットワークも生かしつつ、本学にピア・コミュニティが一刻も早く形成されるようにしていくべきだ。

経済学部 経済学科
岡崎 愛子

私がこの講義を受講したのは、自分がボランティアセンターの学生スタッフであり、ピア活動に深くかかわっていると思ったからです。

この授業は毎回さまざまな講師の方が多方面からピア活動についての話をしてくださり、とても勉強になります。体育館でも体を使った学習など、他の講義では学べないことが多いです。

私はこの講義で仲間同士での交流・助け合いの大切さを学びました。それをこれからの生活に生かしていきたいと思っています。

文学部 総合人文学科
山咲 博昭

この講義は、今まで受講した講義とは大きく違い、普段では学ぶことのできない本学の歴史や組織体系を知ることができました。本学に2年間通っているにもかかわらず、まだまだ知らないことがたくさんあることを実感しました。

さらに、講義内で実践的な活動が2回ありました。「相手を理解する」ことが重要となってくるピア・サポートにおいては非常に参考になりました。今後、ピア・サポートをしていく上で、この講義の内容は非常に役に立つものだと思います。

授業を通して 仲間の大切さを知った



「仲間のいることの大切さを、この授業を通して知ることができた」「普段当たり前だと思っていたことを改めて見つめなおすと、思いがけないような発見があることに気づいた」——本授業で提出してもらったショートレポートでよく見かけた感想です。一方、「学問」としての知識を身につけるといふより、関大や自分のことといったより身近な題材について学ぶ授業ばかりで、授業内容に戸惑った方もいるかもしれません。

でも、そんな体験そのものも大事にしてほしいな、と私たちは思っています。来年この講義を受講する後輩から戸惑いの声を聞いたら「私も似たような経験をしたよ」というようなことを伝えられたらいいですね。

ピア活動を皆さんが進めるにあたって、私たちTA・RAはそのお手伝いをするのが仕事です。少しでも興味がある方は、凜風館4階の学生支援室に来てください！もちろん未受講の方も大歓迎です。今年受講していない人は、来年ぜひ受講して下さいね！

コラージュ体験教室

5月27日(火) 18:10~19:40

コラージュは、各自持ち寄った雑誌を切り取り、色紙に貼り付けるという一見単純な作業ですが、皆さん、講座では真剣に取り組み、出来上がりにも大変満足していました。最後に参加者同士で作品を見ながら話し合うなど、講座の目的である「作業を通してかかわりのきっかけを作ること」ができていたように思います。

ボランティアセンターでは、このような特別な技術を必要とせず、子どもから大人まで楽しめる講座の開催を秋学期にも検討中です。ぜひ皆さん参加してください。



下宿生のための料理教室

～おねえさん達がやさしくレッスン～
5月28日(水) 18:10~19:40

凧風館2F学生食堂「ディノア」で、学生センター主催「下宿生のための料理教室」が開催されました。1年生の中でも下宿生を対象にし、日頃から外食等で食事のバランスを崩しがちな学生に料理の基本を学んでもらい、もっと自炊をしてもらおうと企画した行事です。

関西大学生協の協力で、学生たちは、かぼちゃのそぼろあんかけ、野菜炒めなど、慣れない料理に腕を振るい、最後は全員で試食を行いました。正課外教育プログラムとして初の試みだった料理教室に多数の参加者が集まり、大変好評でした。



一覧

正課外教育プログラム

学生センターでは、さまざまな無料の講座、講習会、スポーツ教室や健康啓発プログラムなどを開催しています。まだ参加したことのない人も、参加したことのある人も、ぜひさまざまな講座を受講してみてください！
賢く情報収集して正課外教育プログラムを活用しましょう！

これから実施のプログラム

自己啓発 鑑賞 健康 スポーツ 研修会

※11月以降のプログラムは、次号(10月初旬発行)に掲載します。

※下記内容は変更することがあります。詳しくは各課にお問い合わせください。

TDS講習会

日時 毎月4回(夏季休業期間を除く)
場所 中央体育館
定員 30名
問合せ スポーツ振興課



血圧・体脂肪測定

日時 いつでも ※保健管理センターは13:00~18:00、高槻キャンパス保健室は開設時間内
場所 千里山:保健管理センター事務室
高槻:高槻キャンパス保健室
定員 何名でも 問合せ 保健管理センター



アルコールパッチテスト

日時 7月8日(火)~9日(水) 14:00~17:00
場所 保健管理センター事務室
定員 500名
問合せ 保健管理センター



学生スタッフ合宿(活動実践編)

日時 7月30日(水)~31日(木)
場所 高岳館
対象者 ボランティアセンター学生スタッフ
問合せ ボランティアセンター事務室



血管年齢測定

日時 9月30日(火)~10月3日(金) 14:00~17:00
場所 保健管理センター事務室
定員 500名 問合せ 保健管理センター



手話講習会(初級コース、初級応用コース)

日時 9月下旬~11月 毎週火・水各8回(予定)
場所 凧風館4Fミーティングルーム2
定員 各30名
問合せ ボランティアセンター事務室



お笑いイベント(仮)

日時 10月8日(水) 時間未定
場所 KUシンフォニーホール
定員 360名
問合せ ボランティアセンター事務室



剣道教室

日時 10月14日(火)~12月16日(火) 10:40~12:10 計10回
場所 養心館 剣道場 定員 30名
問合せ 保健体育主事会・スポーツ振興課



禁煙指導

日時 いつでも
場所 千里山:保健管理センター事務室
高槻:高槻キャンパス保健室
定員 何名でも 問合せ 保健管理センター



映画「ニワトリはハダシだ」

日時 7月2日(水) 13:00~15:00
場所 KUシンフォニーホール
定員 360名
問合せ 学生生活課



「ピア活動を始めよう!」合宿

日時 7月29日(火)~31日(木)
場所 榊池高原ロッジ
定員 60名
問合せ 学生生活課



血管年齢測定

日時 7月1日(火)~3日(木) 10:00~12:00 13:30~15:30
場所 高槻キャンパス保健室
定員 100名 問合せ 高槻キャンパス保健室



アサーショントレーニング講座

日時 9月26日(金)~10月24日(金) 18:10~19:40 計5回
場所 凧風館4Fミーティングルーム2
定員 20名 問合せ ボランティアセンター事務室



歯の健康セミナー

日時 10月2日(木) 13:00~14:30
場所 高槻キャンパス第2会議室
定員 10名
問合せ 高槻キャンパス保健室



ファシリテーショントレーニング講座

日時 10月9日(木)~23日(木) 18:10~19:40 計3回
場所 凧風館4Fミーティングルーム2
定員 20名 問合せ ボランティアセンター事務室



「新聞を読もう」

~就職にも役立つ新聞の読み方~

日時 10月中旬
場所 凧風館4Fミーティングルーム
定員 200名
問合せ 学生生活課



ピア・サポーター 集まれ!

学生生活課では、ピア・サポーターとして活動してくれる学生諸君を募集します!

●ピア・サポーターとは?

ピア・サポーターとは、ピア・サポート活動をする学生のことを言います。「ピア・サポート」とは、仲間(ピア)同士で助け合い(サポート)、相互支援を行うことです。

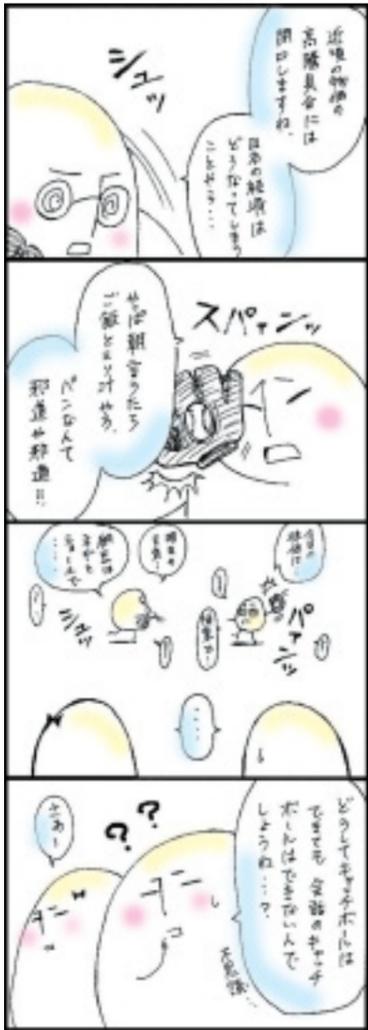
●何をやるの?

「学生相談」「障がい者支援」「留学生支援」などが考えられますが、どんな支援でもどんな助け合いでもかまいません。皆さんのアイデアによって、活発に活動してほしいと思います。

●どうなるの?

ピア・サポート活動を通して、自ら問題を設定し解決する能力や、対人関係を構築する能力を身につけることで、大学への帰属意識をもった学生、社会人基礎力をもった学生、他者を思いやる豊かな人間性をもった学生として育てていくことを期待しています。仲間のことを考えることで、自分にもプラスになる、そんなピア・サポート活動にぜひ皆さん奮ってご参加ください!

※詳しく知りたい方は凧風館1Fの学生センター学生生活課まで。
URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/gakusei/gp/>



●学内編

図書館の本の落書き、気になりませんか？
きれいな本で勉強したくないですか？
そんな思いから、週1回3、4時限目に図書館の本の落書き消しをしています。図書館の一室で、和やかな雰囲気です。気軽に参加してください。参加方法はインフォメーションシステムで確認してください。

●特別編

関西大学と縁の深い、奈良県明日香村の中心を流れる飛鳥川の景観保護のため、11月中旬に川沿いの草刈りをして、花桃の植樹を行います。
関西大学と明日香村のつながりや奈良や明日香の歴史に興味のある人は、参加してみませんか？
日常生活では体験できないような作業ができますよ。



ボランティアセンターでは、ボランティアセンター学生スタッフとともに「ボランティア体験ツアー」を実施しています。
ボランティアってどんな活動しているの？なんか参加しにくいなあ…と思っている人のために、今回は空いた時間に参加できる『学内編』、日曜日に友だちと参加できる『学外編』、大学と縁の深い活動である『特別編』を紹介します。もっと知りたいと思った人は、凜風館1階ボランティアセンターへ来てください。

参加 ボランティア しましょう

●学外編

毎月第一日曜日、「淀川掃除に学ぶ会」の方々と淀川河川公園を掃除しています。
朝9時からの活動がつらいなあと思いがちだけど、朝から活動することの気持ちよさや午後からたっぷり時間があることを考えると、ちょっとお得な休日活用法かも。
みんなで楽しく掃除してみませんか？



凜風館 1F

ボランティアセンター入口はこちら



KANDA! ここどこ?

どっきりするコントラスト。劇団四季のロングラン公演で有名な「キャッツ」のメロディーが聞こえてくるようだ。ボンバルリーナやマンゴジェリー、マンカストラップにミストフェリーズら、ネコたちがひょっこり顔を出す……わけはない。

これは高槻キャンパスの厚生棟の内部、らせん階段の壁に映る外からの光。しかし、ここなら「メモリー」が上手に歌えそう。

われ 関'S

誠之館別棟と有鄰館の間を抜け、簡文館へ向かう幅の狭い階段がある。その昔、現在の中央体育館が建っている土地は、野球専用の第2グラウンドだった。野球部が練習している姿を、この階段の中腹に足を止め、見ている学生も多かった。ホームから見て右中間、バッターが120メートル弾を飛ばした位置。飛距離のパロメーターになっていた階段は当時のままである。手つかずなのは、階段脇に群生する木も同じだ。5月も終わりころになると実が成長し始める。6月には大量の実が落ち、誰に拾われることなく土に埋もれていく。

この実を利用できないか。「梅酒」にして、来年のスプリング・フェスティバルあたりに母校へ帰ってきたOBに振る舞えないかと思った。白球を、あの階段まで飛ばそうと熱くなった思いは埋もれない。それを階段から目で追っていた人の若き日々も埋もれさせはしない。胸が躍った。

実を漬けてもらおうと動いてみたら、ビックリした。あの木は梅ではなかった。「花桃です」と諭された。梅に見えた小ぶりの桃の実は、食用にはならないという。梅酒は、関大生協が手回しよく、適切な実を使って製造中なのだとか。

けれども、思い入れの強かった場所に残る、梅と思いでいた木の実たちがせめて何かにならないか。「ジャムになりませんか？」今、関係者に聞いて回っている。(J. T)

知る人ぞ知る 遊歩道

遊歩道を持つ大学は国内にそうないと思われるが、関大高槻キャンパスには知る人ぞ知る「遊歩道」がある。



体育施設のゴルフ練習場横をスタート(=写真①)し、見ようによっては「万里の長城」のような階段(=写真②)を上る。道は手すり付きとなり(=写真③④)このあたりでは、もう遊歩道のお気持ちは吹き飛んだ。191段を上りきってゴール！厚生棟にたどり着き、その上には千里山キャンパスにもない噴水(錦鯉も出迎え=写真⑤)が涼しげだった。

この遊歩道、実は14年前の総合情報学部誕生時からあったわけではない。正課体育に出席する学生の移動用として造られた。45万平方メートルある敷地の中で、およそ南半分位置する体育施設へは当初、北の端の体育館で着替えた後にマイクロバスで動いていた。諸般の事情でバスを使わないようになり、そこで登場したのが遊歩道だった。

ゴルフ練習場から見てさらに下にあるグラウンドまでは、たっぴりとした幅の石段がある。これは合わせて271段。遊歩道の191段との合計で462段となる。移動に時間は費やすが、物は考えようで、いいウォーミングアップとクールダウンになれば…。

体育の授業とは別に、のんびりと散策するのにも使える。ただし、周囲にはくれぐれも注意を。高槻キャンパス特有のお知らせ(=写真⑥)が目をつけた。



MDMA・麻薬・覚せい剤・大麻・シンナーの乱用をなくそう。

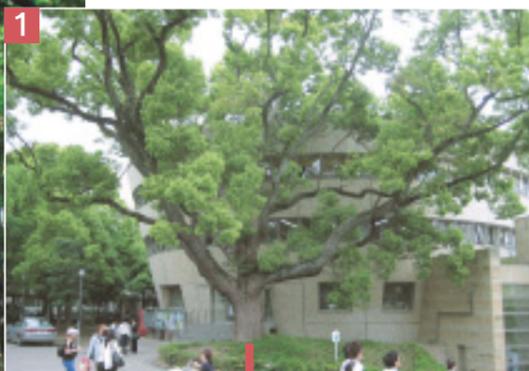
(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター、関西大学



関大に緑がそよぐ。

35万平方メートルに及ぶ千里山キャンパスにマッチする木々は、その葉の総表面積が宇宙規模。樹齢100年を越す古木もあり、専門家にしっかり見守られ、樹木区の定期検診を受ける。

KBC(関西大学放送研究会)の廣山みどり会長とアナウンサー部小川愛奈部長が、古木と向き合った。2人がともに心惹かれたのは大クスノキ。一度じっくり木を見ると、さまざまな興味がわき始める。身近に静かに立っていた木々が、樹木ワールドを語り始めるのだ。



1
クスノキ 樹齢約120年
新関西大学会館南棟そば
クスノキは吹田市の木でもある



2
キンモクセイ 樹齢約80年
関西大学会館横
岩崎卯一元学長に育てられ昭和41年から学内に

古木MAP



ホンマに生きてるな

廣山みどり

私の知らない長い時間を生きてきて、そしてこれからもずっと生きていく。それがうらやましくて、静かにときどきさせられる。正門を入ってすぐ右手の彼(彼女?)を見るたびにそう感じる。彼の名前は「クスノキ」。およそ120歳という、関大と同じ年の私たちの大先輩。木を見てると「ホンマに生きてるな」と感じる。木もちろんだが、「私も今生きてるな」と思う。それは大先輩からの無言の教えなのか、はたまた悟り(?)なのかは分からないが、とにかく「静か」に「ときどき」させられる。「木には不思議な力がある!」「そんな力ないやろ…」そう思ったあなた、ぜひ正門を入ったらクスノキにあいさつしてほしい。きっと不思議と心地よくなるはず。

考えて立つ「かしこい木」

小川 愛奈

「かしこい子供」「かしこい犬」はよく聞くけれど、「かしこい木」…??これは初めて聞いた。何が「かしこい」のか?木が難問を解くのか?木が芸をするのか?イヤ違う。クスノキは自分が生きやすいように考えて生えている。すごいことだ。まるで無作為に大きくなっているようで、実は建物を避けていたり、邪魔な枝を落としていたり…木に私たちが言う脳や心があるかどうかはわからないが、「奴ら」は考えている。じっとしているようで、実はしっかり考えて立っている。

関大には、そんな「かしこいクスノキ」がたくさん立っている。私が一番好きなのは第1学舎の方にある「9本立ち」と言われるクスノキ。大きくのびのびした感じが好き。だんだん暑くなってきたこの季節、クスノキたちに守られながら、その木陰で涼むのもいいかもしれない。



3
アラカシ 樹齢約70年
第2学舎1号館前
マイナスイオンが多く発生しているといわれる地域の一角にある



5
カイズカイブキ 樹齢約60年
簡文館前
石碑を守り狭むように立つ



4
ヒマラヤスギ 樹齢約60年
ITセンター横
ひときわのつぼでみんなの目に付く



8
エノキ 樹齢約60年
北門付近
第1学舎5号館北側の芝生奥に雄大な姿を見せる



7
イチヨウ 樹齢約100年
以文館裏
斜め下から見ると学舎と幹の対比が面白い構図に



6
クスノキ 樹齢約190年
簡文館前
「9本立ち」といわれる雄大さで他を圧倒



樹木ワールドを語り始める